

# NEXT21自然のたより

## 2012年11月



No. 11

2012年11月6日

### 1. 蔦紅葉

虎ファンが始終目にして  
いる甲子園球場のツタ、  
今の季節「**蔦紅葉**」が輝い  
ているものと思  
います。

**ツタ**はブドウ科のつる植物、ヤマブドウ

ウなど木に巻きついて伸びる種もあるが、根の先に**吸盤**(写真の丸い点)を持っていて壁に張りついて伸びるので、壁一面を覆い、晩秋に蔦紅葉が見られます。

NEXT21 でもエレベーター塔上部や6Fの壁にツタが伸びていて蔦紅葉の見ごろを迎えており、空中街路で緑色の柱のごとくそびえている常緑のキツタとの対比が楽しめます。



蔦紅葉

吸盤

## 2. 紅葉の始まり

蔦紅葉だけでなく、落葉樹が紅葉の季節を迎えています。

### ①ガクアジサイ・額紫陽花

#### 装飾花の紅葉(ユキノシタ科)

屋上庭園やエコロジカルガーデンで咲くガクアジサイの花は、6月に紹介しました。ガクアジサイの真ん中、皿状の両性花(散房花序)を取り囲む花びらのような装飾花は、花後も落ちないでそのまま残り、赤く紅葉?しています。

装飾花が今の季節まで残っていることと、真ん中で皿状の実が熟す時期との関係あるのかどうか、植物に不思議さがいっぱいあります。



### ②カスミザクラ・霞桜(バラ科)の紅葉

1Fエコロジカルガーデンで、カスミザクラの紅葉が始まっています。

紅葉はまだ一部ですが、空中街路から見た真っ赤な葉と緑色の葉のバランスが美しく見事です。

木の葉が**紅葉する条件**は、①十分な日当たり ②夜の急激な冷え込み、などで、11月に紅葉が増えています。

葉の老化でクロロフィルが分解されると、カロチノイドの黄色が目立ち、更に葉の付け根に離層ができると葉にたまっていた糖分からアントシアニンが作られ真っ赤に色づくようです。上述のガクアジサイの装飾花は赤くなっても落ちないので、違う仕組みと思われる。



### 3. カラタチ・唐橘(ミカン科)

#### 1. カラタチの実

花(4/16)→

大きな刺のあるカラタチ、屋上庭園にピンポン玉ほどの黄色い実が何個か実っています。

カラタチは中国原産の落葉低木で、NEXT21ではナツミカンと共にアゲハの幼虫を育てていることは、8月に紹介した通りです。



#### 2. キコク(枳殻)の思い出

「からたちの花が咲いたよ……」で始まる小学唱歌「からたちの花」(北原白秋作詞、山田耕筰作曲)、そして「心で好きと叫んでも……」の島倉千代子「からたち日記」など、口ずさんでいた「カラタチ」が、子供の頃「キコク」と呼んでいた木と同一であると知ったのは、少し後のことでした。

お腹を空かしていた終戦直後の頃、家にキコクがあったので、黄色い実を取って口に入れたが、酸っぱく食べられず、種をぷつと吐き出したことがあります。また、切り傷などが化膿して腫れた傷跡から膿(うみ)を出すため、カラタチの刺を消毒もせず針の代わりに使ったこともあります。

百均もコンビニも無かった時代、身近にある自然のものを、フルに利用していたことを思い出しています。

**キコク**：①カラタチの別名。鋭いとげがあり生垣に利用される。

東本願寺にある庭園、「渉成園」が枳殻邸とも呼ばれるのは、周囲に枳殻(カラタチ)が植えてあったためとのこと。

②ミカン科の成熟した果実を乾燥した生薬(健胃作用がある)。

## 4. ナワシログミ・苗代茱萸(グミ科)

### ①ナワシログミの花

屋上庭園に「ナワシログミ」の花が咲き始めました。

果物として流通しているグミは「ナツグミ」で、春に花が咲き夏に赤く熟します。

大阪近郊の河川敷などに多い「アキグミ」は、真っ赤で小さく丸い実が 11 月頃実り、メジロなど小鳥類が良く来ます。小鳥に食べやすい大きさですが、人が食べるには小さく、物足りなさを感じます。



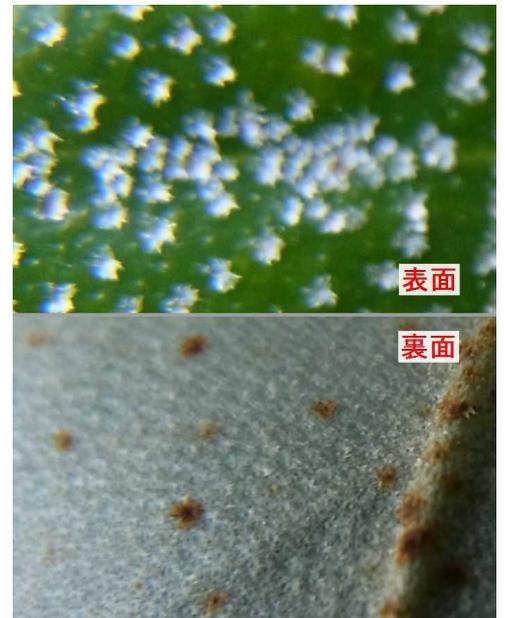
ナワシログミは常緑低木で、大阪近郊の山地の林床で良く見かけるが、公園樹としても良く利用されます。秋に花が咲き、春、イネの苗代を作る頃に熟することから、ナワシログミと名づけられています。4月下旬頃、橙～うす赤色に実ったナワシログミを食べると、ナツグミほどには甘さはないものの、グミ特有の味覚が味わえます。グミが実ると、ヒヨドリなど甘党の鳥がナワシログミの実に集まっています。

### ②グミの葉に紋様

グミの葉は鱗状毛と呼ばれている銀白色の毛で覆われているので、ナワシログミの葉の表・裏を拡大してみました。

ピンぼけ写真で、しかも倍率が低いのですが、表面は白色に輝く毛が生えています。裏面も一面に銀白色の毛で覆われており、気孔と思われるところには褐色も見えます。

鱗状毛には何らかの重要な機能があると思われそうですが、何を目的として葉の表面を細かい毛を覆っているのかわかりません。



尚、花(上の写真)にも白色、そして一部褐色の毛が密生しています。

## 5. どんぐり(団栗)

### ①クヌギ・櫟(ブナ科)

NEXT21・1 Fのクヌギがあり、ハナムグリが吸蜜に集まることを9月に紹介しました。そのクヌギにドングリ(団栗)が実り、木の下に落ちています。

クヌギのドングリは直径2 cmほどの球形で日本産ドングリでは一番大きく、ドングリが座るお椀(殻斗)は、鱗片びっしりの楽しい形をしています。



### ②コナラ・小櫟(ブナ科)



栄養価が高いドングリは、クマ・サル・リス・ネズミなど哺乳類や、オシドリ・カケス・ヤマガラなど鳥類と食べる動物が沢山います。ドングリは動物に食べる所へ移動してもらい、食べ残し・貯蔵忘れなどによる種子散布を期待しています。

ドングリを運んでくれる動物が少ないと思われるNEXT21 屋上庭園では、土の上に落ちたコナラのドングリは、4月に報告したように新しい芽を出すことができ、種子散布に成功していますが、写真のように床に落ちて一生を終えるものも少なくありません。

### ③花からドングリへ

ブナ科の花→ドングリへ実る期間と種名に面白い規則性？があります。それは種名に濁音があれば花→ドングリ間が1年半、種名が清音のみであれば半年であることです。大阪近郊で良く見られる樹種名はほぼ合っているので、種名を覚える楽しみが増えます。

濁音種(1年半) : **クヌギ**・アベマキ・ツブラジイ・マテバシイ・ウバメガシ

清音種(半年) : **コナラ**・アラカシ・シラカシ・カシワ

一部違う種(いずれも半年) : **ミズナラ**・ナラガシワ・イチイガシ